

平成9年度 畑作関係除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成9年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成9年12月8日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験14剤、適用性試験38剤であっ

た。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表の通りである。

平成9年度 畑作関係除草剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意		
1. AC-263 液 ・イマザモックスアソモニウム塩 0.85%	大豆	実・継	一年生広葉雑草	土壌	大豆出芽直前～出芽揃(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・雑草の葉令限界について	
	小豆	実・継	一年生広葉雑草	土壌	小豆出芽直前～出芽揃(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・雑草の葉令限界について	
	菜豆	実・継	一年生広葉雑草	土壌	菜豆出芽直前(雑草発生始期～本葉展開期)	20～30ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・雑草の葉令限界について ・低薬量での効果、薬害の確認	
					菜豆出芽期(雑草発生始期～本葉展開期)	25～30ml 散布水量 10L					
	2. CG-119 α乳 ・S-メトラクロール 915g/L	大豆	継								・効果、薬害の確認
		菜豆	継								・効果、薬害の確認
落花生		継								・効果、薬害の確認	
とうもろこし		継								・効果、薬害の確認	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
2. CG-119 α乳 つづき	かんしょ	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
	こんにゃく	継								・効果、薬害の確認
3. CG-205 ・7°ロシルフロソ 70%	とうもろこし	実・継	一年生広葉雑草	茎葉	広葉雑草 1～4葉期 とうもろこし 1～4葉期	0.3～0.4g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	全域	1)寒地は加工用とうもろこしに限る 2)広葉雑草優占圃場で使用する。 3)体系処理；イネ科雑草対象の既登録除草剤を使用する。 4)イヌホウズキの多発圃場では使用をさける。	・薬量と効果、薬害の確認 (温暖地西部、暖地)
4. FKH-15 水和 ・7°タミス 30% ・DCMU 15%	大豆	継								・効果、薬害の確認
5. Hoe-866 液 ・カルホシネート 18.5%	さとうきび (畦畔)	実・継	雑草全般	茎葉	雑草生育期 (草丈30cm以下)	50～100ml 散布水量 10L	全土壌	暖地	1)作物に飛散しないように散布する。	・効果、薬害の確認
6. Hoe-866 -3 H水和 ・カルホシネート 10% ・DCMU 15%	ばれいしょ	実・継	一年生雑草全般	茎葉	植付後 萌芽前 雑草生育期	12.5～20ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・地域拡大
7. KUH-959 乳 ・フルチアセトメチル 5%	とうもろこし	継								・効果薬害の確認 ・草種拡大のための処理方法
8. NBA-961 顆粒水和 ・メタミロン 70%	てんさい い (直播、移植)	継								・効果、薬害の確認
9. NC-331① 水和 ・ハロスルフロソメチル 5%	とうもろこし	実・継	イチビ	茎葉	イチビ 2～5葉期 (とうもろこし 3～5葉期)	5～7.5g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地	1)飼料用とうもろこしに限る。	・多年生カタリグサ科に対する効果
						5～10g 散布水量 10L		温暖地 以西		
					ショクヨウガツリ	5～10g 散布水量 10L		温暖地		

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
			対象雑草	処理 方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
9. NC-331① 水和 つづき	さとう きび (春播、 夏播)	実	一年生広 葉雑草お よびハマス ゲ	茎葉	さとうき び生育初 期 広葉雑草 3～5葉期	15～20g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	暖地	1)体系処理；イネ 科雑草対象の既登 録除草剤を使用す る。	
					ハマスゲ 3～5葉期	10～20g 散布水量 10L				
10. NC-360 フロアブル ・ネザ®ロキジム 7%	大豆	実・ 継 (前年 通り)	一年生イ ネ科雑草 (但しス メノカタビラ は除く)	茎葉	イネ科雑 草3～6葉 期	20～25ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉 雑草対象の既登録 土壌処理剤を使用 する。	・7～8葉期での効 果の確認
	小豆	実・ 継 (前年 通り)	一年生イ ネ科雑草 (但しス メノカタビラ は除く)	茎葉	イネ科雑 草3～6葉 期	20～25ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉 雑草対象の既登録 土壌処理剤を使用 する。	・7～8葉期での効 果の確認
	菜豆	実・ 継 (前年 通り)	一年生イ ネ科雑草 (但しス メノカタビラ は除く)	茎葉	イネ科雑 草3～6葉 期	20～25ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉 雑草対象の既登録 土壌処理剤を使用 する。	・7～8葉期での効 果の確認
	てんさい	実・ 継 (前年 通り)	一年生イ ネ科雑草 (但しス メノカタビラ は除く)	茎葉	イネ科雑 草3～6葉 期	20～25ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)体系処理；広葉 雑草対象の既登録 土壌処理剤を使用 する。	・7～8葉期での効 果の確認
11. NP-55 乳 ・テフ®ロキジム 20%	そば	実	一年生イ ネ科雑草 (但しス メノカタビラ は除く)	茎葉	イネ科雑 草3～5葉 期	15～20ml 散布水量 10L	全土壌	全域	1)イネ科雑草優占 圃場で使用する。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
12. NP-61 乳 ・テアラロキシム 10%	大豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草3～5葉期	7.5～10 ml 散布水量 10L	全土壌	全域	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理；広葉雑草対象の既登録除草剤を使用する。	
	小豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草3～5葉期	7.5～10 ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理；広葉雑草対象の既登録除草剤を使用する。	
	菜豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草3～5葉期	7.5～10 ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理；広葉雑草対象の既登録除草剤を使用する。	
	てんさい	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草3～5葉期	7.5～10 ml 散布水量 10L	全土壌	寒地	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理；広葉雑草対象の既登録除草剤を使用する。	
13. RH-632 顆粒水和 ・DCPA 80%	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
14. RYH-104 顆粒水和 ・イソキサフルトール 75%	とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前	1.5～2.0 g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地 温暖地		・地域拡大 ・イネ科雑草への効果の確認
						1.5～2.5 g 散布水量 10L		暖地		
15. S-28U 粒 ・アタミス 3%	ばれいしょ	実・継	一年生雑草全般 (但しイカリ科、ツユクサ科は除く)	土壌	植付後雑草発生前	500～600 g (砂土を除く)	全土壌 (砂土を除く)	暖地	・春植えに限る。	・地域拡大 ・秋植え栽培での効果について

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
16. S-3263 乳 ・クレトジム 12%	小豆	継								・効果、薬害の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	てんさい	継								・効果、薬害の確認
	かんしよ	実・継	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草2～5葉期	5～10ml 散布水量 10L	全土壌	温暖地 以西	1)イネ科雑草優占圃場で使用する。 2)体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・葉令が進んだ時の効果の確認
17. SB-536 乳 ・ジメタミド 14% ・リニロソ 12%	大豆	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前	40～50ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・低薬量での効果の確認
						50～60ml 散布水量 10L		寒冷地 温暖地		
						40～60ml 散布水量 10L		暖地		
	とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前	40～50ml 散布水量 10L	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・低薬量での効果の確認
						50～60ml 散布水量 10L		寒冷地 温暖地		
						40～60ml 散布水量 10L		暖地		
18. SSH-130 粉粒 ・トリフルリン 1.2% ・ベンディメタリン 1.2%	ばれいしょ	実・継	一年生雑草全般 (但し苧科、ツユクサを除く)	土壌	播種後～萌芽前雑草発生前	400～600g	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地 温暖地 暖地	・春植えに限る	・地域拡大 ・秋植え栽培での効果の確認
19. WOC-01 液 ・グリサートイソプロピルアミン塩 41%	かんしよ	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起または挿苗7日以前雑草生育期	25～50ml 散布水量 10L	全土壌	温暖地 以西		・効果、薬害の確認
20. フロピサミド水和 ・フロピサミド 50%	小豆	継								・効果、薬害の確認